

議会運営委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 平成29年10月16日(月)から
平成29年10月17日(火)まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 大阪府八尾市 議会改革について
 - (2) 三重県四日市市 議会改革について

- 3 参加者 委員長 渡辺大三
副委員長 宮下誠
吹春やすたか
村山ひでき
白井亨
片山薫
河野律子
水上洋志
議長 五十嵐京子
副議長 森戸洋子
随 行 加藤明彦(議会事務局長)
山浦勉(議会事務局)

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

(別紙1)

視 察 概 要	
【視察日程】平成29年10月16日	【視察先】大阪府八尾市
【視察項目】議会改革について	
【視察目的】 大阪府八尾市議会は、議会改革全般に積極的に取り組み、とりわけ大学との連携やシチズンシップ教育の分野で先進的事例を重ねていることから、当該取組を視察することを目的とした。なお、議会改革全般についても概要説明を受けた。	
【取組の概要】 1 大阪経済法科大学との地域連携を進めている。具体的には職場体験会、議場見学、インターンシップの受入れ等に取り組んでいる。 2 小学生を対象に「八尾まめっこ議会2013」を開催した。 3 18歳有権者に即応し、18歳の選択「やお未来議会2016」を開催した。1部では選挙の仕組みを模擬投票で説明、2部では八尾市の課題や未来に望むことについての発表に対して、議員がコメントするなどした。 4 河内音頭の魅力の発信と市議会に対する市民の親しみと関心を高めることを目的に、「八尾河内音頭まつり議会」を開催した。 5 予算・決算の審査に関しては、予算決算常任委員会を設置している。	
【所感、課題等】 委員1 市議会として主権者教育に取り組むという姿勢は大いに参考にすべきであり、地域の大学や高校との連携によって普段接点を持ちにくい若者層、特に高校生の声を聴く機会を得ることができる。行政に「若者の政治参加」を求めるのであれば、議会としてもこの事例を参考に独自に取り組んでも良いのではないかと考える。小金井市には5つの公立・私立高校があり、リソースは充分にある。 委員2 予算決算常任委員会を設置、分科会方式での審査形式は、審議時間が増加しがちな本市における良い参考事例と言える。学生を対象とする未来会議の実施は主権者教育にも資するものであり、学術の中心として知的資源を集積する大学と市議会との連携協定を行うことで相乗効果を生じると考える。市内に大学が多く所在する本市の特徴もいかしつつ、地域社会における政策課題への対処と地域発展に寄与することができるものとする。	



委員 3

大学との地域連携について、学生への実務経験の提供という点は大学からニーズがあることが分かった。また、議会として専門的知見をどうかすのかという点の研究が必要であると感じた。また、「まめっこ議会」「やお未来議会」については、議会として18歳選挙権に何か対応できないかとの発想は素晴らしいと思った。議会への理解と関心を深めてもらう取組として大変貴重である。議会事務局体制を確保することの大切さを感じた。

委員 4

やお未来議会で高校・大学生から市政への提言を受けたり、市議会議員が選挙で掲げた政策の進捗状況などを市議本人に質疑してもらうというユニークな試みは若者の視点で政治を見直す意義がある。大学生インターンも調査研究したいが、まずは中学・高校生の職場体験の受入れが最初だろう。委員会の所管事務調査について行政から処理経過報告をってもらう方法や、市議会災害対策会議の設置（議場での防災訓練も含む）も興味深かった。

委員 5

八尾市議会の若者に対するアプローチは素晴らしい。特にまめっこ議会。「やお未来議会」は少し大掛かりなイベント的になっている、と感じたが、子ども議会は継続性があり、子どもたちが議員と議席で相談しながら議決態度を決めていく、といった臨場感あふれる取組だと思った。有効な主権者教育には、幼い頃からの個々の意思が尊重されるという実体験の積み重ねが重要であると考えている。

委員 6

「大規模自然災害発生時の対応要領」に注目したい。策定は平成24年6月に特別委員会を設置し専門的知見の活用や参考人招致等を行いながら、約2か年を費やしている。策定に伴い「八尾市議会対策会議」を市議会の公的な会議体と位置付け、市長から提案された議案をすぐに議決する対応に焦点を当てた市議会としての対応に特化している。また、市で採用している「安否確認サービス」に議員も登録するなど実情に合った対応と言える。

委員 7

八尾市議会は議会改革の取組として、平成25年に「大阪経済法科大学との地域連携」覚書を締結した。その後、インターンシップを受け入れ、各種新聞記事からの注目記事の抜粋作業や傍聴者受付など、幅広い職務体験を提供している。また、大学教授等を招聘できるため、今後、議会として専門的知見を積極的に活用することが可能になっている。議会に続き、市も同大学と協定を締結しており、議会先導の改革推進は注目に値する。

委員 8

私自身、1999年、小金井市議会の議場を使用しての「第1回こども議会」の実行委員長を務めた経験があるが、現在、議場を使用しての青少年企画が実施されていないのは極めて残念である。八尾市議会が青少年との接点を積極的につくっている姿は、大変好ましく感じた。また、小金井市議選はついに投票率が40%を割り込む惨状となっていることから、八尾市議会のようなシチズンシップ教育への積極姿勢を持つべきだと感じた。

視 察 概 要

【視察日程】平成29年10月17日

【視察先】三重県四日市市

【視察項目】議会改革について

【視察目的】

四日市市議会は、全国的に見て、議会改革の水準が極めて高い評価を受けていることから、議会改革への取組全般を視察することを目的とした。

【取組の概要】

- 1 議員の意見交換のための市政活性化推進等議員懇談会（市活懇）を設置し、その発展的組織として、議員政策研究会（議政研）を設置した。
- 2 正副議長選に立候補制を導入した。
- 3 議員提案による政策条例制定・改正に積極的に取り組んだ。
- 4 文書質問制度を導入した。
- 5 議員の意見集約に基づき、市長に政策提言を行った。
- 6 傍聴手続きを簡素化し、住所・氏名の記入を廃止した。
- 7 政務活動費を実費後払い制に切り替えた。
- 8 市民との意見交換会（シティ・ミーティング）を議会報告会とは別個に開催した。
- 9 議会報告会は4つの常任委員会が定例議会ごとに開催している。
- 10 その他、数多くの議会改革を実践している。



【所感、課題等】

委員1

盛りだくさん過ぎて消化しきれないが、小金井市議会としても、せめて議長から2年任期の冒頭で議会改革の何をどう進めるかの提案をしてもらい、それを基に協議し、議会改革の各論を詰めていくフローにする必要があると思う。条例はあれども、目線合わせができていないと感じている。また、市民の信託に応えるための本格的な政策議会へ改革するためにも、政策検討会の活用について協議する場を年度の初めに設けてはいかがだろうか。

委員2

議会改革による効果等は、まだこれからというものの、市議会運営に係る意見や提言をお願いする市議会モニター制度、常任委員会前までに議案に対する意見募集、議長の定例記者会見、決算委員会における意見や提案などへの施策対応を市議会に報告することなど、参考事例がとても多かった。市議会の活性化、透明化に向け更なる議会改革の取組を

進めていきたい。

委員 3

様々な「議会改革」を進めている原動力が、誰か一人の人物によるものではなく、営々と議会の中で引き継がれてきたものであると感じた。議員政策研究会を設置し、議員間討議を活発に行っていることに、意見や見解が違う議員同士でどのように立案していくのかなど興味深い点があり、検討課題であると感じた。市議会モニター制度、議会報告会、シティ・ミーティングのフィードバックなど議会の新たな取組として研究していきたい。

委員 4

議員間の政策理解を深めることになる議員政策研究会、議会独自の情報発信に有効な議長による定例記者会見、議会報告会における市民意見のフィードバックのフロー、八尾市でも行っている議会モニター制度などを導入してみたい。ただし、議会モニターは重複して特定の人物や団体ばかりが選考されないよう、任期や再任の運用の工夫が小金井の場合は必要だろう。ちなみに、政務活動費の後払い方式は小金井には馴染まないと感じた。

委員 5

四日市市議会の議会改革への熱意には敬服する。議会改革を進めるには、まずはチャレンジすることが重要だと感じた。議会報告会のやり方や予算決算審議の在り方が興味深く大変参考になった。多種多様な市民意見を受け入れる力がある議会と感じたが、気になったのは女性議員が非常に少ないこと。本来はこのことを課題に議会改革を進めるべきだろう。なぜ女性議員が少ないのかという詳しい考察を聞きそびれてしまったのが残念だった。

委員 6

「市民がどう思っているか」「改革の効果は道半ばと思っている」視察冒頭に伺った言葉である。とても謙虚であり、議員としての向上心にあふれる言葉と感じた。つまり、「他所でやっているから」とか「今の傾向だから」などの動機とは大きく一線を画す感がある。視察側への回答の中で「議員同士が議論する場がなかった」「全議員がひとつの議題について話し合う場がなかった」だからこそ改革を選択したとの趣旨の回答が心に響いた。

委員 7

議会改革の先駆的取組で有名な四日市市議会だけあって、非常に濃い説明もあつという間に過ぎた感があった。なかでもスポーツ振興条例等「議員提案の政策条例」策定に向けては、苦節5年の経緯もお聞きでき、その熱意と根気には大いに共感を覚えた。また、政務活動費の後払い方式導入については、議会事務局が経理的負荷を従前担ってきたという背景があるにせよ、納税者の目線を意識した毅然たる改革姿勢は是非見習いたい。

委員 8

特に、議員間の意見交換に基づき、政策を形にしようという分野ではさまざまな工夫を重ねておられ、小金井としても、取組を見習うべきだと感じた。また、文書質問制度は「当然」のごとく導入され、活用されていた。いまだに文書質問制度の導入に踏み切れない小金井は非常に恥ずかしいと思う。議会報告会は、常任委員会ごとに、毎定例議会で開催されている。議会全体で年1回という小金井は非常に恥ずかしいと思う。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 597,920円

〈内 訳〉 委員旅費	@50,160円	×10人	=	501,600円
1人当たり旅費		交通費		29,560円
		宿泊費		15,000円
		日 当		5,600円
職員旅費	@48,160円	×2人	=	96,320円
1人当たり旅費		交通費		29,560円
		宿泊費		15,000円
		日 当		3,600円

2 執 行 額 597,920円

〈内 訳〉	交通費	354,720円
	宿泊費	180,000円
	日 当	63,200円

3 差 引 残 0円